

(お知らせ)

柏崎刈羽原子力発電所 1号機のシュラウド点検状況について

平成 15 年 1 月 20 日
東京電力株式会社
柏崎刈羽原子力発電所

当所 1 号機（沸騰水型、定格出力 110 万キロワット）は、9 月 3 日からの定期検査において、シュラウドの各溶接線について水中カメラ^{*1}を用いた中間部リング溶接線（H3）内側の目視点検（VT）過程で、中間部リングと上部格子板設置用部材^{*2}のすみ肉溶接部 9 ヶ所にインディケーションがあることを確認しました。
(10 月 24 日お知らせ済み)

当該 9 ヶ所のインディケーションについてブラッシングを行い、あらためて VT を行ったところ、9 ヶ所ともひびであることを確認しました。

ひびが確認された箇所については、現在、超音波探傷検査（UT）による詳細調査を実施しております。

以 上

- * 1 点検に使用している水中カメラは、10～30cm 離れた距離から直径 1 / 1000 インチ（25.4 / 1000mm）のワイヤが識別できる程度の精度を持つものです。
- * 2 上部格子板は、シュラウドの中間部リング上に設置されていますが、リング上に直接設置されているわけではなく、30°毎に置かれた 12 個の直方体の台座（ベース）上に設置されています。なお、12 個のうち 8 個は上部格子板用ベースであり、残りの 4 個はアライナーブラケットと呼ばれているもので、上部格子板の位置決め用の機能を担っており、これは完全な直方体ではなく、半円球状の“切り欠き”を有しています。